主論文の要約

論文題目　　小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支えるハイブリッドサポートに関する一考察

氏　　名　　大山　卓

論文内容の要約

特別支援教育とインクルーシブ教育システムの流れを踏まえて，小・中学校では障害のある子どもへの教育の充実が進められてきた。一方，特別支援教育の導入による負担や不安などを抱いている教員も少なくない（高田，2009；小木曽・都築，2016）。特別支援教育への関心が高まり，小・中学校における特別支援教育の対象となる子どもは増加傾向にある。特に小・中学校の特別支援学級に在籍する子どもは，この10年間で約２倍に増加している（文部科学省，2021）。それに伴って，小・中学校の特別支援学級を担当する教員も増加し，特別支援教育を専門としてこなかった教員が初めて特別支援学級を担任するケースも少なくない。小・中学校の特別支援学級は，在籍者数の増加と在籍する子どもの障害の重度化・多様化が進み，担任の負担が重くなってきている。また，小・中学校の特別支援学級は，通常の学級とは違う職務のため，新たな職務への適応が求められる。そのため，特別支援学級を担当する教員のストレスが指摘されているが，効果的なサポートは体系化されていない（森・田中，2012；山口・岩田，2017）。

特別支援教育では，障害の特性理解や特別支援教育の基礎的知識，子どもへの指導内容・指導方法の工夫など，教員の専門性向上が欠かせない（文部科学省，2021）。特に小・中学校の特別支援学級は通常の学級とは異なる学級構造（学級編成や教育課程など）であり，通常の学級の担任とは異なる専門性や心理的困難が想定されるが，特別支援学級に特徴的な専門性や心理的困難はこれまで明確化されていない。

年々増加傾向にある小・中学校特別支援学級担任に対する専門性向上に向けたサポートの充実は喫緊の課題である。校内サポートの中心的な役割を担うのは特別支援教育コーディネーターであり，校内支援体制を整えたり，担任をサポートしたりする役割が期待される。特別支援教育コーディネーターについて，職務や校内支援体制の構築，役割認知，ストレスなどに関する研究はあるが（長谷部・阿部・中村，2012；岡田・下山・石山，2014；小山・鈴木・東・佐々木，2019），特別支援学級担任へのサポートに関する研究は少ない。また，校外の専門機関によるサポートとしては，特別支援学校があげられる。特別支援学校は障害に関するセンター的機能として，学校周辺地域の障害のある子どもやその保護者への教育相談，

小・中学校教員へのコンサルテーションなどの支援を行っている（大山，2010）。しかし，特別支援学校のセンター的機能は，校外の専門機関としての役割が期待されているが，その効果的なコンサルテーションの進め方は体系化されていない。

これらの現状と課題を踏まえ，小・中学校特別支援学級担任への専門性向上サポートと心理的困難軽減サポートの２つの機能を併せ持つ「ハイブリッドサポートモデル」を提示した（図１）。本論文では，小・中学校特別支援学級担任への効果的なサポートに着目し，特別支援学級担任の専門性と心理的困難を明確化し，この２つのサポートの効果的なサポート源を明確化する。さらに，特別支援教育コーディネーターと特別支援学校のセンター的機能を取り上げ，小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支える「ハイブリッドサポートモデル」の特徴と効果について，新たな知見を得ることを目的とした。

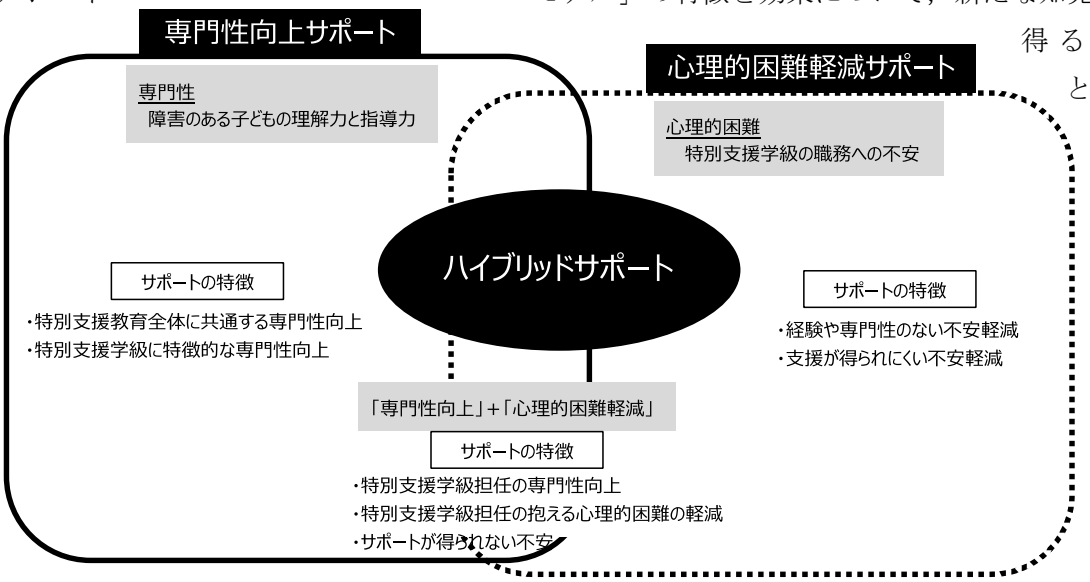

図１　小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支えるハイブリッドサポートモデル

第１章　特別支援教育に携わる小・中学校教員が抱える課題とサポートに関する研究・実践の展望

第１章では，特別支援教育やインクルーシブ教育システムの現状と課題を取り上げた。特に特別支援教育が始まってから変化の大きい小・中学校特別支援学級に着目し，専門性や心理的困難など小・中学校特別支援学級の現状と課題について先行研究を概観した。

小・中学校教員が抱える課題として，特別支援教育の経験不足による不安や専門性への自信のなさ，サポート体制がないことへの不安，などがあげられた。また，小・中学校特別支

援学級に在籍する子どもの障害の重度化・多様化に伴う指導の難しさの課題もあげられ，担任へのサポートの重要性が示された。小・中学校の特別支援学級は他の教育形態とは学級構造が大きく異なるが，特別支援学級担任に特徴的な専門性や心理的困難はこれまで明確化されていない。

以上の先行研究結果を踏まえて，小・中学校の特別支援学級担任が抱える心理的困難に着目し，専門性向上サポートと心理的困難軽減サポートの２つの機能を併せ持つ「ハイブリッドサポートモデル」を提示した。特別支援教育コーディネーターと特別支援学校のセンター的機能を取り上げ，小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支える「ハイブリッドサポートモデル」の特徴と効果について，新たな知見を得ることを本論文の目的として示した。

第２章　初めて特別支援学級を担任する小・中学校教員の初期適応プロセスと効果的なサポートの分析（研究１）

第２章では，小・中学校で特別支援学級を初めて担任する教員の４月から７月までの４か月間を新たな職務への初期適応の時期と位置付け，年度当初に直面する心理的困難と初期適応プロセスにおける効果的なサポートを明らかにすることを目的とした。

研究１では，小・中学校特別支援学級担任の初期適応プロセスにおける心理的困難とそれを支えるための効果的なサポートを明らかにするために，初めて小・中学校で特別支援学級の担任となった教員へのインタビュー調査を実施した。初めて小・中学校の特別支援学級担任となった教員の年度当初の心理的困難について，「教員キャリアの揺らぎ」と「特別支援学級の職務の不安」の２点を，教育実践を進めていく上での特別支援学級担任の心理的困難として，「子ども理解への不安」「学習指導方法や対応方法についての不安」「職場環境の不安」の３点を示した。また，指導力向上と心理的困難軽減の２つの機能を併せ持つ「ハイブリッドサポート」に該当するサポート源として，「研修システム」「特別支援教育コーディネーター」「特別支援学校のセンター的機能」をあげ，ハイブリッドサポートの特徴を示した。

第３章　特別支援教育コーディネーターによる小・中学校特別支援学級担任へのハイブリッドサポート（研究２）

第３章では，小・中学校の特別支援学級担任の専門性を明確化して，特別支援教育コーディネーターによる小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支える「ハイブリッドサポート」の特徴や効果を明らかにすることを目的とした。

研究２では，小・中学校の特別支援教育コーディネーターへのインタビュー調査を実施し，小・中学校の通常の学級とは異なる特別支援学級の特徴的な構造を踏まえた専門性について，①子どもの理解力，②子どもの指導力・対応力，③授業力・教材作成力，④保護者対応力，の４点を示した。また，特別支援教育コーディネーターによる特別支援学級担任へのハイブリッドサポートについて，専門性向上サポートとしては，研修充実の推進や専門機関からサ

ポートを受けるための調整役を担い，心理的困難軽減サポートとしては，保護者対応や担任の後方支援など身近な相談者として，担任への情緒的サポートの役割を担っていることを示した。専門機関のコーディネート的役割を担うサポートが特徴であるため，特別支援教育コーディネーターによるハイブリッドサポートを「コーディネーション型サポート」と名付け，その特徴と効果を示した。

第４章　特別支援学校のセンター的機能による小学校特別支援学級担任へのハイブリッドサポート（研究３）

第４章では，特別支援学校のセンター的機能として行うコンサルテーションの効果や課題を検討し，特別支援学校による小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支える「ハイブリッドサポート」の特徴や効果を明らかにすることを目的とした。

研究３では，特別支援学校のセンター的機能担当教員である筆者が実施した，小学校特別支援学級担任へのコンサルテーションの自験例を取り上げ，特別支援学校が行う学校コンサルテーションの効用と限界を検証した。特別支援学校が行うコンサルテーションの効用として，①授業場面を通した相談，②専門的立場からの相談，③継続的支援，④保護者への対応サポート，⑤学校機能への介入，の５点を示した。これを踏まえて，特別支援学校が行うハイブリッドサポートの専門性向上サポートの特徴としては，「特別支援学校教員による授業場面を通して行うサポート」「障害に関する専門機関によるサポート」の２点をあげた。また，心理的困難軽減サポートの特徴としては，「子どもへの指導に対する担任の不安への継続的なサポート」「保護者や教員間連携のサポート」の２点をあげた。特別支援学校によるサポートは，授業場面に応じたコンサルテーションが特徴であり，授業の工夫など授業場面を中心とした専門性向上の役割と担任の不安な心情に寄り添う情緒的サポートの役割がある。この特別支援学校のセンター的機能によるハイブリッドサポートを「センター的機能型コンサルテーション」と名付け，その特徴と効果を示した。

第５章　総合考察

本章では，研究１から研究３で明らかになった知見を踏まえ，小・中学校特別支援学級担任の専門性と心理的困難及び効果的なサポート源について考察した。小・中学校特別支援学級に在籍する子どもや保護者の量的･質的変化と特別支援学級の特徴的な学級構造を踏まえ，指導力・対応力が特別支援学級担任の専門性であることを示した。また，人事異動への戸惑いや経験のない特別支援学級担任への不安，担任の裁量の大きい教育課程のための学習内容や指導方法への不安，校内での孤立感，などが小・中学校の特別支援学級担任が抱く心理的困難であることを示した。さらに，専門性向上と心理的困難軽減の２つの機能を併せ持つ「ハイブリッドサポート」に該当するサポート源として，「研修システム」や特別支援教育コーディネーターによる「コーディネーション型サポート」，校外の専門機関として特別支援学校が行う「センター的機能型コンサルティング」を示した。そして，ハイブリッドサポート

の特徴や効果として，専門性向上サポート機能としては，①授業コンサルテーション，②専門機関活用，の２点を，心理的困難軽減サポートの特徴としては，①継続型サポート，②情緒的サポート，の２点を示した（図２）。小・中学校の特別支援学級担任への専門性向上が課題としてあげられるが,専門性向上だけでなく心理的困難軽減にも着目したサポートが重要であり，専門性向上と心理的困難軽減の２つの視点から行う「ハイブリッドサポート」が特別支援学級担任の職務への適応を支える効果的なサポートとなることを示した。

また，本論文で得た知見の学校現場での適応についてその意義を論じ，最後に本論文の限界と今後の課題について論じた。

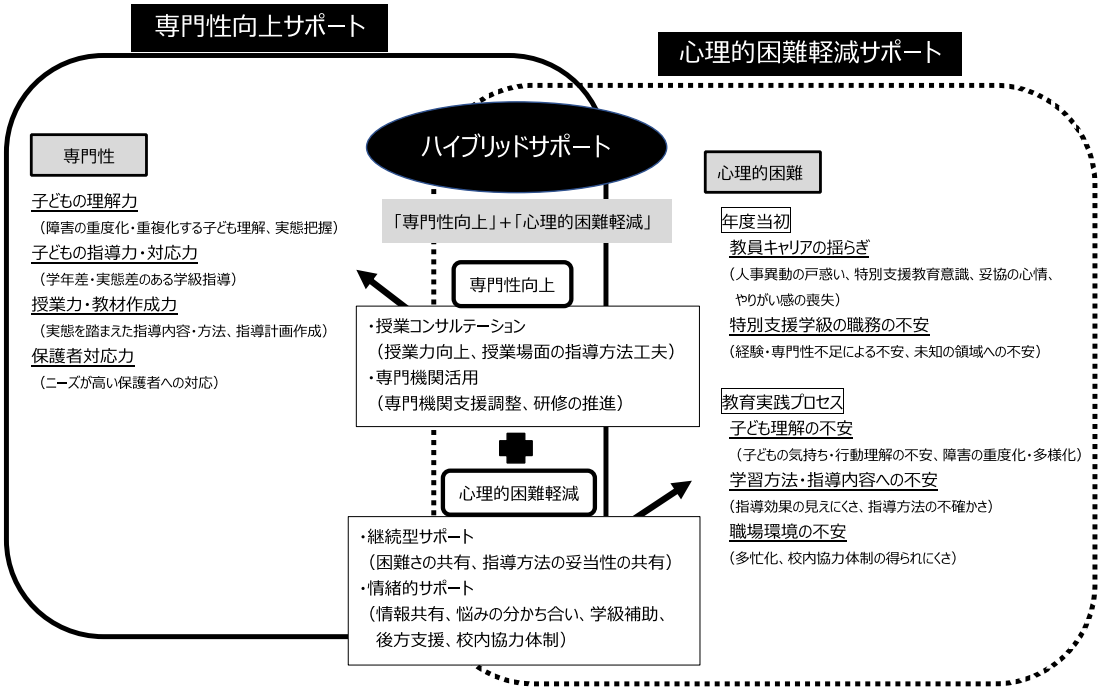

図２　小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支えるハイブリッドサポートモデルの機能

本研究の特色・意義

本論文は，小・中学校の特別支援教育へのネガティブな意識や特別支援教育の経験や専門性がないための不安，などの特別支援学級担任の心理的困難に着目し，専門性向上と心理的困難を支えるための効果的なサポートに着目した研究である。特別支援学級の構造の特徴を踏まえた担任の専門性と特別支援学級担任の直面する心理的困難を明確化した。また，特別支援学級担任への専門性向上サポートと心理的困難軽減サポートの２つの視点から行うハイブリッドサポートに着目し,校内サポートの中心的役割である特別支援教育コーディネーターによる「コーディネーション型サポート」と校外の専門機関である特別支援学校による「センター機能型コンサルティング」を提示し，特に心理的困難に着目した効果的なサポートモデルを提示したことが本論文の特色である。

本論文で得られた知見は，今後，都道府県教育委員会や市町村教育委員会が主催する特別

支援学級担任や特別支援教育コーディネーターへの研修，また，特別支援学校のセンター的機能担当者研修などでの適用が期待できる。